

相手の価値観を知ることの大切さ

進藤さんの「日本は外国市場に対するマーケティングが不足している」という話が印象的でした。イベントを行う身としても、情報やモノを一方向的に発信するのではダメなのではないか、相手の文化や価値観を知ったうえで、自分の国の文化を伝えることが重要だと思いつきかけとなりました。



日本館でのイベント:2月12日,14日

日本館では日本語講座を開いていて、進藤さんのご厚意により、講座生の方々に弘前の魅力を伝える機会を頂きました。何より大事なのは伝えようとする努力。相手にわかってもらえるよう、簡単なフランス語やゆっくりとわかりやすい日本語に、身振り手振りを交えてプレゼンを行いました。その結果、弘前に興味を持ってもらい、弘前を訪れてみたいという嬉しい言葉をいただきました。

カフェ・ジャポネでのイベント:2月16日

壁や窓、テーブルを使って展示。フランス語の説明書は、事前にボルドー・モンテーニュ大学の学生に文法をチェックしてもらい、筆ペンの手書きで作成しました。

実質2時間と限られた展示時間でしたが、ボルドーの学生のサポートのおかげで、何とかイベントを成功させることができました。



▲大八島サークルは、日本文化に興味を持つボルドー大学の学生サークル(圧倒的にアニメやマンガのファンが多い)。ボルドー・モンテーニュ大学では、日本語を学ぶ学生が1年生だけでおよそ180人いるという。

ボルドーの大学生との交流

以前、弘前大学に留学していたキャロルさんから紹介してもらったことをきっかけに「大八島サークル」と交流し、イベントを手伝ってもらうことに。

◀大八島とは『古事記』に出てくる日本の呼称のひとつ。



▲大学には観光学科があるそうで、そこに所属しているヴァンサンさんが、ボルドーのガイドを引き受けてくれた。スタートは、サン・タンダレ大聖堂。



▲一緒にフランスの家庭料理プランケット・ド・ヴォーを作らないかという提案をうけ、宿泊先の台所で、ブイヨンから作るというフランス人の料理へのこだわりを目の当たりに。

豆知識



カヌレはボルドーの女子修道院で古くから作られてきたお菓子。フランス語で「溝を付けた」という意味。「弘前×フランス」プロジェクトでも、モンテーニュ大学と弘前大学との関わりから、カヌレを発信しています。



ボルドーには様々なサイズのワインボトルがあり、それぞれに名前が。一番右が、一般的な750ccのサイズ。その通常サイズの2本分の大きさはマグナムと呼ばれる。



ボルドーの歴史地区「月の港」は世界遺産に登録されている。名前の由来は、三日月形に湾曲しているガロンヌ川沿いで栄えたことから。



ボルドーで有名な100年以上の歴史を持つ書店「Mollat」(モラ)。写真は店舗のごく一部で建物敷地全部が書店スペース。たとえば、折り紙の本コーナーだけで書棚の下から上までが埋まっている。



フランス直送便

「学都ひろさき未来基金」(弘前市、商工会議所、弘前大学が「グローバル」人材の育成に向けて創設)の助成を得て、2015年2月、フランスのボルドー(Bordeaux)とブーヴロン・アン・ノージュ(Beuvron en Auge)を訪れ、弘前を紹介するイベントや取材活動を行ってきました。ボルドーは、弘前大学の協定校であるボルドー・モンテーニュ大学があり、毎年留学生を迎えるなど、弘前との関わりが深いことから。ブーヴロンを選んだのは、これまでの取材活動で、弘前市とのシードルの技術協定を知り、興味を持ったという理由から。ここでは、私たちの2週間にわたる活動の成果について紹介します。

編集:鈴木実世 弘前大学人文学部3年
取材:細川敬介 弘前大学人文学部4年
成田早紀 弘前大学人文学部3年
発行責任者:弘前大学人文学部
「弘前×フランス」プロジェクト
代表:熊野真規子

ブーヴロンってどんなところ?



「フランスで最も美しい村」 ブーヴロン・アン・ノージュ

ブーヴロンには2日間ほど滞在。初日は、カンブルメール(Cambremér)前村長で、カンブルメール観光局理事長のクリスチャン・ボサールさんとブーヴロン村の村長第一補佐アラン・ベルジェさんに案内していただきました。

◀年間6万人の日本人観光客が訪れる人口241人の村。地方独特の木組みの建物が多く、のどかな風景が広がる。



美しい村を守るために

「フランスで最も美しい村」という称号を持つブーヴロン。この称号は、一度剥奪されると、永久に失われてしまいます。美しい村を維持するため、環境を守る意味でも新しい建物を建設することが村の条例で制限されており、増築・改築するにも書類が必要なのとか。他の村の条例に比べて、この村の条例は特に厳しいとのこと。

雑貨なども売っている食料品店。看板は手作り。▶



廃校をアトリエに

少子化が進み、廃校になった村の小学校をアーティストにアトリエとして提供。人々の村に対する誇りと村の活性化を図る姿勢は、強く印象に残りました。

◀エリックさんは陶芸家で、コップや壺など様々な焼き物を制作。記念にりんごの小さな置物をいただいた。(写真左) ダヴィッドさんは製本家で、オーダーを受けて、古本の修復や製本をしている。(写真右)

豆知識

シードルは陶器のボウルを使って飲むのが伝統。(写真左) エスプレッソに、カルヴァドスを垂らして飲むのがノルマンディー風。(写真右)

